

# 令和7年度 恵庭市観光推進協議会(第4回)議事録(公開用)

1 期日 令和7年12月17日(水)10:00～ 市民会館2階視聴覚室

2 出席者 恵庭市観光推進協議会委員11名

(高野会長、伊賀崎委員、内倉委員、菊地委員、小泉委員、小関委員、瀬恒委員、土谷委員、出南委員、沼倉委員、秦委員)

事務局6名

(嘉屋経済部次長、大林花と緑・観光課長、高橋主査、小井主査、今中隊員、伊里)

※欠席委員(尾谷委員、中尾委員、本間委員)

3 報告

(1)第3期恵庭市観光振興計画(案)のパブリックコメント(11月5日～12月4日)実施結果について

●資料1「『第3期恵庭市観光振興計画(案)』のパブリックコメントの意見募集結果及び意見に対する市の考え方について」に基づき、事務局より説明。

<質疑>

なし

4 議事

(1)第3期恵庭市観光振興計画(案)について

●資料2-1「第3期恵庭市観光振興計画(案)」、資料2-2「第3期恵庭市観光振興計画(案)修正箇所対照表」について、事務局より説明。

<質問・意見>

① 表現方法

【会長】P23.5(1)に「公式媒体」という表現があるが、これは何を指しているか。

【事務局】以前「オウンドメディア」と表記していた箇所を修正したものであり、「公式媒体」は恵庭市が直接手掛けるHPやSNS、パンフレット等を指している。また、「公認媒体」は観光協会が作成したウェブサイトやパンフレット等、恵庭市が作成したものではないが公式に近い媒体を指すイメージで記載している。

【委員】一般市民から見ると少し分かりづらいかもしれない。「広報」という言葉を加えるというような工夫が必要であると感じる。

【委員】公式媒体(HP・SNS・パンフレット)というように、括弧書きで具体例があるとわかりやすいと思う。

【会長】「公式媒体・公認媒体」のわかりやすい表現を検討いただきたい。

② 内子町の事例・第4章

【委員】P17 愛媛県内子町の事例について、人口規模の記載があるとイメージがしやすくなる。内子町は人口1万5千人規模で、飲食店の総数が少ないので飲食店DXの取組ができた側面もある。その取組を人口7万人規模の恵庭市でも実現できると望ましいが、規模が違うので大変な面があるという点が、規模感の記載があるとわかりやすくなる。

P20.1(1)中間支援組織について、このような取組を進める上では拠点も必要である。そのため、ガーデンツーリズムの基盤となる組織づくりを進めることはもちろん重要であるが、はなふる自体が市民との他の方々との交流拠点となるような役割を担うことも必要。そうすると必然的に入込が増加し、来訪者の受け入れ態勢も良くなり、P21(7)花の拠点(はなふる)の魅力向上という項目にも繋がってくる。はなふるの新しい機能の1つとして、外と内とを繋ぐ交流拠点を目指し、はなふるに行けば恵庭のいろいろな情報を得ることができ、いろいろな取組に参加できるというような、恵庭のシンボルとなる拠点を目指すような部分が見えてくるとさらに良いと感じた。

【会長】第4章で「花の拠点(はなふる)を核とした」「花の拠点(はなふる)を中心に」という表現があることから、はなふるを組織活動の場所的にも拠点にするという意図が込められていると伺えるが、もう少し場所としても中心にあるということがわかるような表現の追加をお願いしたい。

【事務局】中間支援組織について、来年度中には事務所を構え、活動拠点を作りながら組織化を進めいく予定であるため、表現について検討する。

【会長】P17 内子町の事例に関連して、北海道内の温泉旅館に行った際、数十人で宴会形式の食事を依頼したら、人手不足でできないと言われたことがあった。このような場合に、内子町の観光 DX のような仕組みがあると、温泉旅館での食事ができなくても町の飲食店で食事をとてもらうことが可能となる。恵庭市では、団体での観光受入が多くないためそのような心配は少ないかもしれないが、いずれにしても、恵庭市に宿泊している方に美味しいものを食べていただく等が必要になる。

マリオットホテルではどのような状況であるか。

【委員】現状としては、ホテルに宿泊のお客様に、お食事が必要であればご案内するような状況。飲食店の定休日は把握しており、個人経営の飲食店については必ず事前に電話確認を行っている。稀に臨時休業されている飲食店もあるため、予め確認を行っている。

【会長】宿泊者が飲食店へ向かう際はタクシーで移動される場合が多いのか。

【委員】市からのタクシーチケット補助もあるため、タクシーの利用が見られる。

### ③計画の推進体制

【委員】P28 計画の推進体制の図について、観光協会に市内全ての団体や事業者が結びつき、観光協会と行政が両輪で推進していくというイメージであると思う。文章では「観光協会をはじめ各協働体との連携を強化」という表現になっているが、現行の体制で観光協会が担う部分が大きいという印象を持った。この先の取り組む方向性についてお伺いしたい。

【委員】基本的には、市と歩調を合わせてその都度計画や目線について方向確認をしながら、協会としてできる範囲のことを行っていくという点は今までと変わりがない。今年度からは「これからの恵庭の観光を考える会」を観光協会主催で立ち上げた。観光業界の事業者や市民団体の方々を参考し、20団体程

度の方々との懇談会組織を立ち上げたところである。P28 の図について、「これからの恵庭の観光を考える会」がハブの役割を果たす組織となり得ると思っている。観光振興計画の施策実行に向けた形で「これからの恵庭の観光を考える会」をどのようにアップデートしていくかは、今後様々な方からご意見をいただきながら取り組んでいきたい。

【会長】P28 の図において、観光協会を中心に各事業者と矢印で結びついているのは、「これからの恵庭の観光を考える会」を指しているという認識と理解した。この図は、観光協会がを中心に事業者と調整を行うというように見えてしまうため、「これからの恵庭の観光を考える会」として繋がっていることがわかるように図で示すよう検討をお願いしたい。

【事務局】事務局としても図の表現について悩んでいた。花と緑の文化センター・自然体験協議会・スポーツ交流協議会が実行部隊として施策を進めていく中心的な役割を担っていくと考えている。観光協会は、適切な協議会に繋ぐ役割や、事業者同士を繋ぐ役割等、観光に携わる方々の相談窓口というようなハブ機能を担っていただくことが良いと考えており、それを文章で表現している。ただ、図のみを見ると全てを観光協会が実施するというように見えてしまうため、様々な方を繋ぐ役割という表現をしたい。

【会長】「これからの恵庭の観光を考える会」があって、そこに事業者がおり、その中に観光協会がいるというようなグループを図に示すとわかりやすくなるかもしれない。

【委員】この図の目指すところは非常に先進的な取り組みであると思っている。他の観光協会などでは、関係者が観光事業者のみになることで観光地づくりを進め、いわゆる団体ツアーの観光振興を行うことになる。一方 P28 の図は、観光地域づくりの図となっており、個人旅行者や多様なお客様に対応できるような、観光を道具として地域づくりを行うということが示されており素晴らしい。説明文章の中で、「恵庭観光協会は地域を活性化させるための取組に重点を置く組織になっていく」というような新しい観光協会の在り方や目的等を記載し、その文章を読んだ後に図を見るとわかりやすいと思う。

【委員】先日参加したシンポジウムで、観光協会や DMO に観光地域づくりの全てを担わせるようなことは、権限や予算を含めて課題があるという議題が挙がっていた。観光協会が行うことと行政が行うべきことについては、施策の 1 つ 1 つを丁寧に区分けしていく必要がある。P28 の図について、観光協会の横に行政を入れることにより両輪で進めていくというようなイメージを持てる。

P28 に登場する新たな組織について、体験ツアーやコンテンツを販売するとなると、行政が直接ではなく観光協会を通じて行うことになると思う。その場合、観光協会の体制を強化する必要があり、それを支援する行政側として応援していくというような文言が必要であると感じる。

【会長】P28 に記載のある 3 つの組織について、花と緑の文化センターは P20 に具体的な記述があるが、それ以外の自然体験協議会・スポーツ交流協議会については詳しい記述がないため、観光協会が管理するのか独立した組織なのかがわかりづらい。まだ決まっていない部分が多いかと思うが、自然体験協議会・スポーツ交流協議会がどのような組織なのかという記載があると良い。

【委員】おっしゃる通り花と緑の文化センターと違い、他の二つの協議会に関しては記載がないので、目的や役割についてある程度は記載した方が良い。また、欲を言えば、観光協会も重要な団体となるので記載が欲しいところ。

#### ④ ガーデンシティえにわ

【委員】はなふるではイベント等がたくさん開催されているが、それを集約しているのは(株)ガーデンシティ恵庭であると思っている。(株)ガーデンシティ恵庭と観光協会が協同体となってはなふるを育んでいると認識している。P28 の図に(株)ガーデンシティ恵庭が入っていないのは、中間支援の団体であるからなのか、指定管理者であるからなのか。

【事務局】(株)ガーデンシティ恵庭は指定管理者の業務として携わっていただいているという認識のため、あえて事業者名を出すことはしていない。中間支援組織の「花と緑の文化センター」の活動についても、指定管理者という立場で一緒に取組に参加していただいているため、一緒に取り組んでいくという認識は持っているが、事業者名は本計画に記載していない。

【委員】今、インターネットを検索すると、「(株)ガーデンシティ恵庭」と市の公式 HP の「シティプロモーション ガーデンシティえにわ」という 2 つが出てくる。これらの関係性はどのようなものなのか。

【事務局】シティプロモーションでは「ガーデンシティえにわ」という言葉を使用している。指定管理者は「(株)ガーデンシティ恵庭」という法人名であるため、その 2 つに関係性はない。「ガーデンシティえにわ」という言葉が、キャッチコピーや会社名として幅広く使われている。

【委員】行政として「ガーデンシティえにわ」をシティプロモーションのキャッチフレーズで既に使用しているのであれば、一企業だから名称を入れないということではなく、入れていくのか、それとも見直す方向であるのかという部分については、少し整理していく必要がある。

【委員】市のプロモーションとして「ガーデンシティえにわ」を掲げているのであれば、本計画にその言葉が出てきていらない点が気になる。施策の一つである「ガーデンツーリズムの構築」は、「ガーデンシティえにわ」を目指す中での取り組みになると思うので、文言としては入れた方が良い。

【会長】第 2 期恵庭市観光振興計画には「ガーデンシティえにわ」という言葉は出ているか。

【事務局】観光振興計画には出でていないが、次期総合計画にも明記されているので、本計画での記載方法について検討する。

【会長】次期計画では「暮らすように訪れるまち」ということで、従来から使われている「ガーデンシティえにわ」より少し踏み込んだテーマとなっている。その点について、1 章の計画策定の趣旨の中や 2 章のあたりで一言触れられると良い。また、自然体験協議会・スポーツ交流協議会についても、施策の中で触れることを検討していただきたい。

## ⑤ 各委員から一言

【委員】一般市民の方の暮らしの豊かさがあつてこそその観光であると考えている。ボランティア活動等、市民の力を借りて、恵庭らしいことができれば良いなと思う。その点について、文面でも少し記載があると嬉しい。

【会長】特にオープンガーデンなどの花に関して、恵庭市では、ボランティアやまちづくり活動をされている方の基盤があつて、恵庭の観光が成り立っているという重要な視点である。

【委員】毎回事前に目を通す中では完成かと思っているが、様々な意見が出てさらに良くなっていると思う。市民目線のわかりやすい表現という点でも配慮されている良い計画であると感じている。

【委員】先ほど話題に上がっていた観光地域づくりが今後様々な自治体のメインになってくると感じた。住民の害にならないように、オーバーツーリズムの未然防止の視点をもつて入込客数ではないところを追求していくという考えに賛同する。

【委員】観光協会ではアンバサダー制度を開始しており、アンバサダー第1号は市民の方であるということを踏まえ、今後は恵庭市民ライターを養成して観光協会のHPやSNSを更新していただき、市民の方の力を借りて情報の発信に取り組んでいきたいと考えている。

また、限りのある花の資源・ガーデンの資源があるうちに何とか形にしなければならないと捉えているため、ガイドの養成にも取り組む予定。

【委員】P28の図について、観光協会が様々な事業者に囲まれているという部分が強調して見えてしまふため、矢印の細さや色での区別や、枠を大きくして恵庭市や本協議会が中に入るようなイメージでも良いと思った。

商工会議所で、市内の産業情報を集約していく中で、恵庭市において観光は少なくとも主要産業ではないと感じている。これから観光を産業化していくとしたら、先ほど話にあったような市民の力など、恵庭市の資源をしっかりと明記できれば、他の観光を主要産業としている市町村とまた違った色付けとなり、素晴らしい計画になると思う。

【会長】先ほど委員がおっしゃっていたが、他の地域にはない地域づくりの一環として観光を行うことや、観光事業者だけなく市民が関係者として観光に関わっているという面、「暮らすように訪れるまち」というキャッチコピーの体制を、最初の部分や最後の推進体制の部分などでもう少し強く表現した方が良いと考える。

【委員】第3期恵庭市観光振興計画が完成した後、いろいろな方に浸透していくにはどうすればいいのかという次のステップが気になった。計画の内容をHPで見る市民は少ないとと思うため、口伝えやイベント等を通して浸透させていくのだろうと思うが、そこに計画策定後の1つのハードルがあると感じている。今後も、本協議会を続けながらそのような点についても話し合っていけたらと思う。

【会長】はなぶるを中心に様々なイベントが開催されているので、少しの時間でも第3期恵庭市観光振興計画についてのことや、今後の恵庭の観光についての考え方等、意見交換の場を作ると、市民の皆様にも知っていただける機会になるだろう。

【委員】「暮らすように訪れるまち」というフレーズが良いと思う。恵庭は、綺麗でリラックスした雰囲気があり、住んでみたいと思ってもらえるまちだと思う。計画内に記載されている一つ一つの取組について、誰がやるのか・具体的に何をやるのかという点を認識し、それぞれやっていかなければならぬと感じた。産業界の観点から貢献できることがあれば取り組まなければならぬと思った。

【会長】令和8年度から第3期恵庭市観光振興計画が進んでいくと、今お話をあつたように、誰が何をするのかということをそれぞれの施策で確認し、修正を行うという作業が必要となる。

## (2)その他

【事務局】次回協議会は、令和8年2月頃を予定している。次回協議会が観光振興計画策定に向けた最後の協議会になる予定であるため、極力皆様のご都合に合わせた形で日程調整させていただければと思う。その後は、3月の議会(委員会)に最終案を報告し、3月中旬から下旬に最終決定という流れで考へている。

以上